

# 西光寺だより

第一〇三号 平成三二年三月一日発行

日中の陽がぼかぼかと暖かい春を連れてくる頃となりました。

三月は自然が息を吹き返し、生命の息吹が其処ここへ溢れています。学校では卒業の時を迎え、新たな門出へと送り出す季節であります。

『芽吹きのとぎ』

この季節にはこんな言葉がびったりではないでしょうか。

この時期の子ども達は、まるで芽吹きの草木と同じように小さな芽を出しているようです。これからまた一年をかけて枝葉を伸ばし花を咲かせ、前よりも大きな実へと成長していくのだと嬉しく思います。

ただ成長するということは、良い面ばかりが育っていくわけではありません。物事には表と裏があるように、成長するということは良い面、悪い面のぶつかり合いの中でこそ育っていくのだと思います。

そして、それは子ども達だけでなく、大人になった私たちの人生においても同じことが言えるでしょう。人間というものは、良いことも悪いことも持ち合わせて生きています。それも自分の都合で良いことになり悪いことになりがちであります。大事なことは、両面をもっている自分を知ること。自分の都合で生きている身勝手さを知ること、ではないでしょうか。

大人になると良いほうに導いてくれる存在が少なくなってくるものですが、阿弥陀さまはいつも傍で良い方へと導いて下さっています。

毎月のお速夜参りは、ご先祖様のいのちを通して今のいのちと向き合える大切な時間です。どうぞこの時間に安心の日暮しの確認をされてみてください。きつと、いのちのつながりの中、阿弥陀さまに見守られているという安心を感じられることと思います。

三月はお彼岸であります。その太陽が真西に沈むのを見た人々が、遙か遠くの西にある極楽浄土に思いをよせて手を合わせるようになったのがお彼岸の始まりと言われています。そんな思いを感じながら。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

これからも皆様と共に一念仏出来たらと思っております。

合掌

◆先月号でありました《浄土真宗三択クイズ》はいかがでしたでしょうか。このようにクイズにすることで疑問や理解が少しでも明らかになるというお声も頂戴し、ありがたいことだと思っております。

今月号はクイズの答えと解説をさせていただきたいと思っております。クイズの答えはすべてBです。

ただ訂正がありまして、二月五日までのお速夜でお配りした西光寺だよりで、Q9の答えが第五代となっていないものがありましたので、お詫びして訂正とさせていただきます。申し訳ございませんでした。

それでは、皆さんから質問がありました**Q1、Q3、Q7**、の解説をしたいと思います。

**Q1**の正式名称は、浄土真宗本願寺派という答え。

西光寺に初めて来られる方からもここのお寺はお西ですか、お東ですかと質問される事があります。

浄土真宗と名乗っている宗派は、お西とお東をあわせて伝統的な宗派だけで「真宗十派」といわれています。それは、

- ①浄土真宗本願寺派（西本願寺）
  - ②真宗大谷派（東本願寺）、
  - ③真宗高田派（専修寺）
  - ④真宗仏光寺派（仏光寺）
  - ⑤真宗興正寺派（興正寺）
  - ⑥真宗木辺派（錦織寺）
  - ⑦真宗出雲路派（毫撰寺）
  - ⑧真宗誠照寺派（誠照寺）
  - ⑨真宗三門徒派（専照寺）
  - ⑩真宗山元派（證誠寺）
- の十派あります。これらを見ますと浄土真宗とつくのは十派の中で本願寺派だけであることが分かります。これら十派は親鸞聖人の門弟といった方々がひらかれましたが、浄土真宗本願寺派（お西）と真宗大谷派（お東）は親鸞聖人の子孫がひらかれていません。

**Q3**の南無阿弥陀仏の読み方、なもあみだぶつがありました。

「南無」は **namo** の音写語で「わたしは帰依します」という意味。

本願寺派では「南無」をこのように「ナモ」と読みます。一般では「ナム」と読まれることが多いので、なぜ「ナモ」なのかとしばしば疑問をもたれるところではありますが、親鸞聖人の著作を見えますと、親鸞聖人ご自身が「ナモ」という読みを基本とされていたことが確認できます。つまり本願寺

派で「ナモ」と読むのは、親鸞聖人以来の伝統ということがあります。

ちなみに真宗大谷派（東本願寺）は「ナム」と発音します。

日常勤行聖典の「讃仏偈」での南無阿弥陀仏は「なーまーんだーぶー」と縮めて読まれています。なお、お勤めの時のお念仏には決まった発音と節があります。口々にお念仏する時には、「なんまんだぶ」「なもあみだぶつ」など、人それぞれとなえられ、これが一番正しいということはありませんので、自分にとって自然となえかたでお念仏していただけたらと思います。

### Q7の報恩講。

報恩講は、文字通り「恩に報いる集まり」ということであります。親鸞聖人のご命日（一月十六日）にあたって、阿弥陀如来の本願を聞きひらき、味わいを深めさせていただく、親鸞聖人のご法事であり、真宗門徒にとって一番大切な行事であります。

他の行事が大切でないという事ではなく、九十年にわたるご生涯をかけてお念仏のみ教えをあきらかにされ、それを私たちに伝えて下さった親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ行事であります。そのみ教えがあるおかげで他の行事・法要が行われていると味わいたいものであります。

西光寺での報恩講は毎年十一月に厳修致しますが、京都西本願寺などの各本山で営まれる法要は『御正忌報恩講』と呼ばれ、祥月命日を最終日として一週間にわたり営まれます。

これからもクイズなどを通して楽しくご縁作りが出来たらと思いますので、これからもよろしくお願い致します。



## ◆三・四月の行事◆

・三月 二十一日（木・祝）

仏教婦人会総会

午前十一時三十分から追弔会（正信偈）

午後十二時～ お齋

午後一時～ 総会

・四月 六日（土）

春季永代経法要・追弔会

午後二時・午後七時

西光寺本堂

◎御講師 本願寺派布教使 宮部 誓雅 師

※なお、追弔会は午後一時三十分より厳修致します。

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>